

平成23年12月15日

平成23年度病害虫発生予報第9号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病	並	並
	うどんこ病(防除情報第14号)	多	多
	褐斑病	やや少	やや少
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病	並	並
	コナジラミ類	やや少	やや少
	ハモグリバエ類	やや少	やや少
レタス	灰色かび病	並	並
	菌核病	並	並
たまねぎ	ネギアザミウマ	並	並
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ハダニ類	並	並
ブロッコリー	黒腐病	やや多	やや多
	べと病	並	並
	コナガ	やや少	やや少

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は3.2%(1.0%)、発生圃場率は、25.0%(26.0%)であり、一部多発圃場が認められた。

2. うどんこ病

平成23年12月15日付け、病害虫発生予察防除情報第14号による。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率1.0%、発生圃場率19.8%)。

4. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

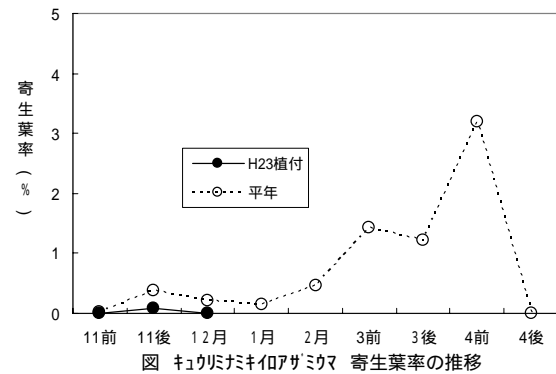
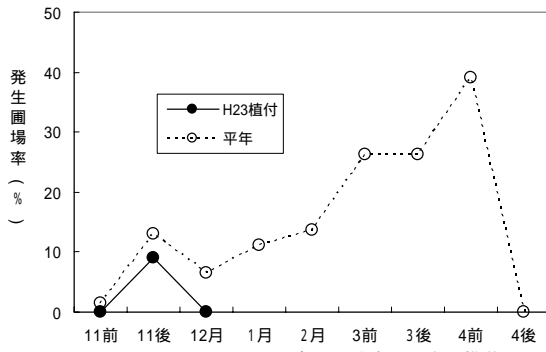
発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生を認めなかった(寄生葉率0.2%、発生圃場率6.5%)。

(3) 防除上注意すべき事項

本虫は、黄化えそ病を媒介するので、早期発見・早期防除に努める。



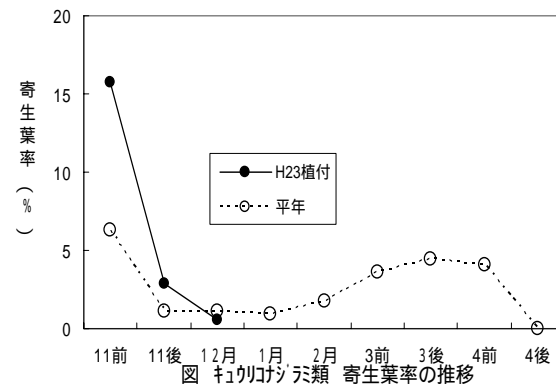
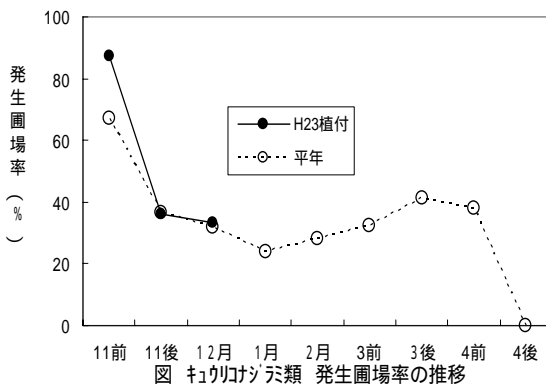
5. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.6%(1.1%)、発生圃場率は33.3%(31.9%)であった。



トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.1%(過去7カ年平均0.2%)、発生圃場率は25.0%(同21.7%)であった。

2. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.2%(寄生株率1.4%)、発生圃場率は8.3%(24.0%)であった。

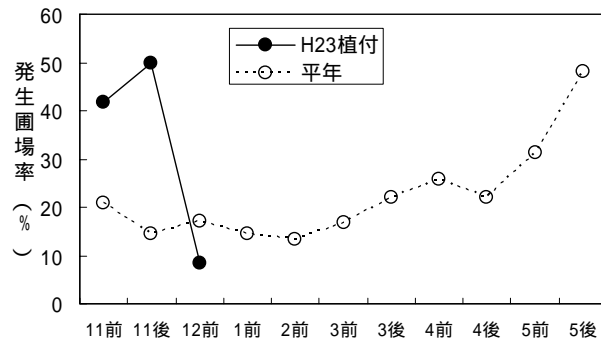


図 トマトコナジラミ類 発生圃場率の推移

3. ハモグリバエ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、被害葉率は0.8%(1.3%)、発生圃場率は8.3%(34.4%)であった。

レタス

1. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.8%)。

2. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率は0.2%(0.1%)、発生圃場率は26.7%(21.2%)であった。

たまねぎ

1. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は8.9%(6.6%)、発生圃場率は60.0%(44.2%)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.4%(0.3%)、発生圃場率は3.7%(6.0%)、果実での発生は認めなかった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は7.4%(4.2%)であった。

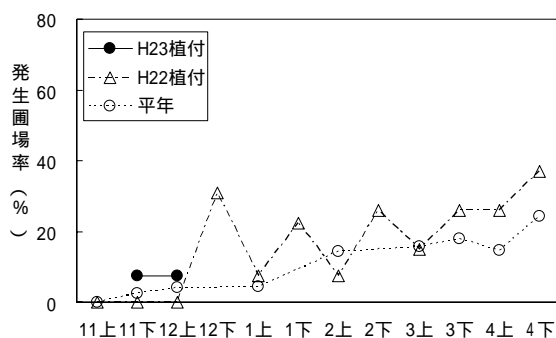


図 いちご 灰色かび病(果実) 発生圃場率の推移

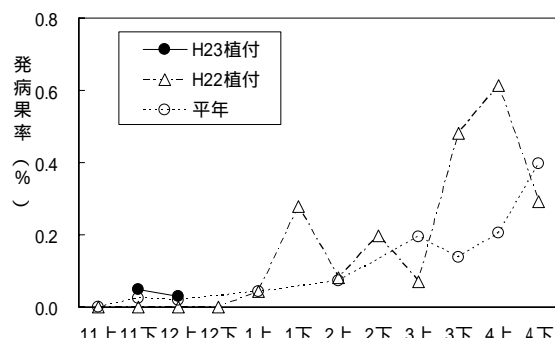


図 いちご 灰色かび病(果実) 発病果率の推移

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.5%(1.1%)、発生圃場率は22.2%(11.1%)であった。

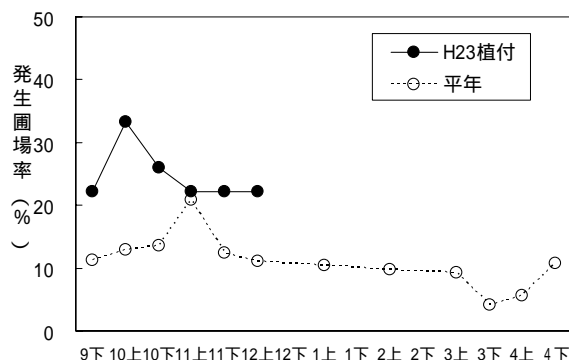


図 いちご アブラムシ類 発生圃場率の推移

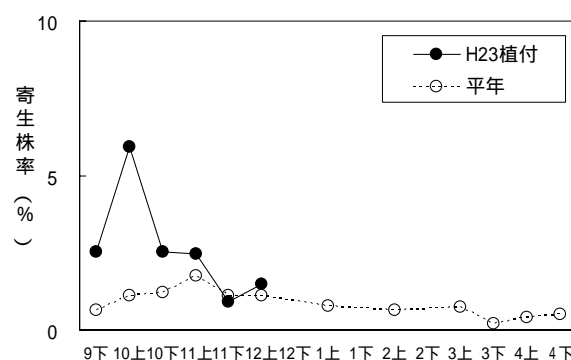


図 いちご アブラムシ類 寄生株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。
- イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は2.4%(2.6%)、発生圃場率は18.5%(21.3%)であった。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病株率は20.9%(過去4カ年平均0.4%)、発生圃場率は36.4%(同2.1%)であり、一部発生の多い地域があった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布は予防的に実施し初期感染を防ぐ。害虫の食害痕等からも病原菌が侵入するので害虫防除も徹底する。

イ 降雨や強風の後にはできるだけ速やかに薬剤防除を行う。

ウ 発生の多い圃場では発蕾までに防除を徹底する。

2. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(過去4カ年平均発病株率0.1%、発生圃場率2.1%)。

3. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生株率は2.2%(過去4カ年平均11.0%)、発生圃場率は27.3%(同56.3%)であった。

